



相模原市 淵野辺駅南口第2自転車駐車場



ガススプリングによる穏やかな操作性が特徴のOSS製垂直昇降2段式ラック

D 株式会社OSS
A TEL:0568-54-3808
T URL: <http://www.os-solutions.co.jp/>

アルミ製のスリムなデザイン。連結不要で各ラックが独立していることもあり、非常にすっきりしている

続いて取り上げるのは神奈川県相模原市JR横浜線の淵野辺駅前に位置する淵野辺駅南口第2自転車駐車場。指定管理者は「相模原市まち・みどり公社、NCD運営共同事業体」（公益財団法人相模原市まち・みどり公社、日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社：以下「NCD」）。この自転車駐車場では、設置から10年ほど経過した垂直2段式ラックについて、その老朽化対策として一部の入れ替えを検討。今年2月に入替用の製品として自転車駐車場工業会会員である株式会社OSSの垂直昇降2段式「ARS型」（認定品）を採用、導入した。淵野辺駅は、駅からキャンパスまで

の移動に自転車を使う学生も多く、夜間に駐輪するそれら学生の自転車と、通常の通勤・通学利用者の自転車とで、昼夜で利用者が入れ替わるような連続的な利用状況が特徴。このシームレスな稼働率の高さゆえに、ラックの耐久性の高さもより重要になる。もともと市では自転車駐車場のラックの選定については自転車駐車場工業会の認定品と同等以上の性能を有していること（サイクルラック技術基準をクリアしていること）を明確化しているとのこと。今回のラックの入れ替えにあたっては、市からは「何よりも安全性を重視。同時に誰もが使いやすい仕様であること。さらに、耐久性が高いこと」が求められた。そうして選ばれたのがOSSの認定品だった。今回、同製品が設置されたのは場内でも最も利用頻度が高く、2段ラックの上段側の稼働率も非常に高いエリアだという。「耐久性が高くても、使い勝手が悪ければ上段の利用が敬遠され、駐輪需要に支えられなくなってしまう。耐久性とともに、軽い操作性も重視しました」（NCD）

同製品はポストやラック等の主要部がアルミ製で、スリムかつ軽量なのが特徴。さらに上段ラックの昇降動力源としてガススプリングを用いることで急激な上昇、跳ね上がりといった現象を抑えている。自転車を取り出した後はラックがゆっくりと戻るオートリターン機構もあり、戻し忘れによるトラブルを解消している。

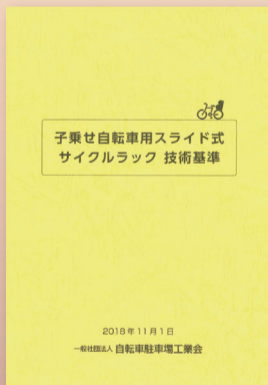
この2月からの導入で、まだそれほど時間も経っていないが、利用者からは非常に高い評価を得ているという。軽い操作性はもちろんのこと、アルミ製のスタイリッシュなデザインで場内がすっきりと明るくなったと好評を博しているとのこと。



取材に応じていただいた（写真左から）日本コンピュータ・ダイナミクス(株) パーキングシステム事業部 公共推進部営業課 増本真子氏、同 公共推進部管理課 プロジェクトマネージャー 岡田拓也氏、(公財)相模原市まち・みどり公社 自転車駐車場グループ 次長 宮崎吉朗氏、(株)OSS 専務取締役 波戸内薫氏、同 執行役員 営業本部長 矢口尚武氏

自転車駐車場工業会「サイクルラック技術基準」

自転車駐車場工業会が策定する「サイクルラック技術基準」は様々なラック様式に対応し、「平面式サイクルラック」「スライド式サイクルラック」「2段式サイクルラック」「上段昇降式サイクルラック」「個別ロック式サイクルラック」、そして新たに加えられた「子乗せ自転車対応スライド式サイクルラック」の6種を設定。ラックの強度や耐荷重性、剛性、倒れ角などの基準値を設けるとともに、自転車の出し入れ時の操作力なども数値基準を設定。耐久性についても実際の出し入れ実験をはじめ、JIS規格に基づき500時間の塩水噴霧試験なども行うこととしている。いくつかの厳しい基準を設けているため、申請から認定まで多大な時間、手間を要するが、これは「安全・安心」のために一切の妥協が許されないため。



DATA

一般社団法人自転車駐車場工業会

TEL 03-3663-6284

URL <https://www.jichuko.net/>

本誌誌面でこれまでもレポートしてきたとおり、自転車駐車場工業会の認定制度は、書類審査から耐久試験、最終の現物審査まで、どのステップも非常に高いハードルとなっている。その結果、誰もが利用する施設である自転車駐車場の「安全・安心」を示す基準として、全国の自治体を始め、様々な場面で活用されている。自転車駐車場工業会では今後もこの「サイクルラック技術基準」及び認定品の普及に注力していきたい、としている。